

| | | | |
|-----------|--------------|------|---|
| 講義名 | 地域ビジネス研究(中国) | | |
| 科目区分 | 学科専門 展開 | | |
| 担当教員 | 潘 志仁 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 水曜日 2時限 | 授業形態 | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

主題と概要

中国経済が改革開放後、驚異的経済成長をしたのはだれでも知っている。そして、その経済成長が、経済の生産活動を担う企業の成長によってもたらされたものであることも確かである。しかし、中国企業の成長についてのわれわれの理解はあまりに貧弱である。中国企業がなぜ急成長できたのか、実際どのように急成長してきたのかを明らかにするのが、この講義のねらいである。

本講義はケーススタディを採用したい。「事実は小説より奇なり」というが、本講義を受講すれば、「企業成長の事実は企業成長の理論より奇なり」といいたくなる。本講義を受講することによって、企業成長の理論を読んでもわからない経営実態を知ることができる。本授業は次の中国企業をケーススタディとして取り上げるが、途中、講義する順番が変わりうることもあるかもしれない。

到達目標

中国企業の成長プロセスの実践的知識と理論的知識を習得できる。
中国企業の経営実態を知ることができる。
成長を続ける中国企業の動きと将来の課題を把握できる。

提出課題

中間課題
期末課題

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業中で講評と解説を実施する。

評価の基準

中間課題：30点
期末課題：40点
講義への関与度：30点

履修にあたっての注意・助言他

「遅刻する」、「授業中の出入りをする」、「私語する」、「居眠りをする」と大人の態度と行動を遵守できない学生には、受講を遠慮願う。
積極的に質問・発言する学生は、大歓迎する。

| |
|------------|
| 教科書 |
| ・「使用しない」。 |
| |
| |
| |
| |

プリント資料及び参考文献

教材配布

授業計画

1. 中国企業の企業形態の解説
2. 通信機器最大手のファーウェイ (1)
3. 通信機器最大手のファーウェイ (2)
4. 情報通信最大手のアリババ (1)
5. 情報通信最大手のアリババ (2)
6. 家電大手のハイアール (1)
7. 家電大手のハイアール (2)
8. 自動車メーカー (1)
9. 自動車メーカー (2)
10. 自動車メーカー (3)
11. 自動車メーカー (4)
12. 部品大手の常州華威金型 (1)
13. 部品大手の常州華威金型 (1)
14. 中国企業の成長の特徴
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| |
|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） |
| イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ○ ウ：ディスカッション、ディベート |
| エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション |
| カ：実習、フィールドワーク |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習では、事前に教員が指定する範囲を読んで、「ほんとうかな」、「ちょっとおかしいよ」、「それはちがうじゃないか」とマークをつけて、授業中で質問を用意しておこう。
復習では、「なにがわかった?」、「なにがまだわからなかったか」と改めて考え、教員に質問しよう。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オーラルラーニングを重視する講義形式で、学生とのディスカッションをしながら授業を進めていく。質問し、発言する学生に加点ポイントを与える。加点ポイントは、成績に反映される。

実務経験の有無及び活用

備考